

「ベッドサイドから政治を変える」このスローガンをもとに、自分達、看護職が頑張っていること、やれることをアピールしていく、発言していく必要があると感じました。どうぞ栃木県看護連盟に、現場での声をお聞かせください。

また、前横田監事の後を引き継ぎ、監事職をこなせるか不安がありますが、「ソクラテスのカフェ」(マルク・ソーテ著、堀内ゆかり訳、紀伊國屋書店、P 165～167) を引用して「何であれ、初めての体験ほど感動的なものはない。それは大事な一瞬であり、それゆえに人生に面白味を与えるのだ。最初の授業、……。何という感動だろう…」その言葉どうり、私が感動した阿部先生の熱き思いを伝える体験をおこなっていきたいと思いました。

今後も栃木県看護連盟活動に全力を注ぎたいと考えておりますので、ご指導よろしくお願ひいたします。



国際医療福祉大学大学支部
支部長
城守 つき

看護の代表を国政に

この度、国際医療福祉大学支
部長の任命を拝命いたしました。
4ヶ所の施設で運営されており、
会員数は233名です。

平成17年度通常総会において
「リפורーム連盟」が可決され、「ベ
ッドサイドから政治を変える」
のスローガンが掲げられました。
その後看護への理解を深め、職
業として看護が選ばれるために、看護連盟の役員の
皆様を中心にさまざまな活動が行われてきました。
その活動に参加するたびに感じて参りましたことは、
やはり看護連盟の会員を増やし、看護職の代表を国
政に送ることの大切さあります。今後も皆様のご
指導をいただきながら、会員一人ひとりが、自分たち
の手で政治を変えるという強い意思を持って活動
していくけるよう運営していきたいと思います。よろ
しくお願ひいたします。

退任役員あいさつ おつかれさまでした。今後もご指導ください。



獨協医科大学病院
渡辺 いつ子

幹事長退任挨拶

会員歴は長いものの、連盟活動
に関する知識など皆無に等しかった
私が、平成13年、広報担当の
幹事となりました。6月の通常総
会で承認いただくと同時に、7月
には第19回参議院選挙の始まり
でした。何も解からぬまま、ひた
すら先輩役員の動きを真似ていた
ように思います。そして平成16

年。幹事長に就任致しました。自分と同じように連
盟会員ではあるけれど、活動にはほとんど無関心と
いう会員がたくさんいるはず。「眠れる会員を揺り動
かしたい」と強く感じたものでした。また、第20回
参議院選挙では、南野先生のピンクの選挙カーに同行
し県内をまわったこと、第21回選挙に向けて、松
原候補と密着行動したこと、すばらしい思い出です。
連盟活動は笑顔で楽しく、モットーに携わってまい
りましたが、無力な私を常に支えて下さった渡邊
会長はじめ、役員の方々、多くの会員の方々のご指導、
ご協力があったればこそと大変感謝致しております。

今後も常に看護の代表を政治の場へ送り続けなければなりません。役員は退任致しますが、看護連盟
の会員の1人として、その責務を果たしていきたい
と考えております。栃木県看護連盟のますますの発
展を祈りつつ、退任の挨拶とさせていただきます。
大変お世話になりました。



獨協医科大学病院
横田 妙子

監事の任を終えて

平成20年度の栃木県看護連盟
総会で監事としての任を降りる
事になりました。約10年間・組
織政策・財政・監事と担当が変
わりましたが、渡邊会長はじめ
多くの方々にご指導いただきな
がら楽しく連盟活動が出来た事
を心より感謝しております。財
政を担当したときは会費を含む

収入・支出の内容を項目事にタイプで1字1字打ち
ながら選挙管理委員会に提出する資料を準備し、会
長はじめ事務員・財務担当が勢ぞろいで出かけて
行き、初めての経験でしたので、どきどきして待っ
ていましたが適正な報告が認められ、ほっとして帰
ってきた事が昨日の事のように思い出されます。

また連盟＝政治＝選挙活動の中で“当選”“落選”
の両方を体験しました。選挙は勝たねば意味が有
りません。今度の選挙は勝負の時です。看護連盟の真
価が問われるときです。

栃木県看護連盟の役を辞しても連盟会員の一人
です。みんなの力を結集して“当選”的ウエーブが
おきるように役員をして利をフルに活用して
1票でも多くの票が取れるように多くの人に働きか
けていきます。これからも栃木県看護連盟のます
ますの発展を期待しています。有難うございました。